

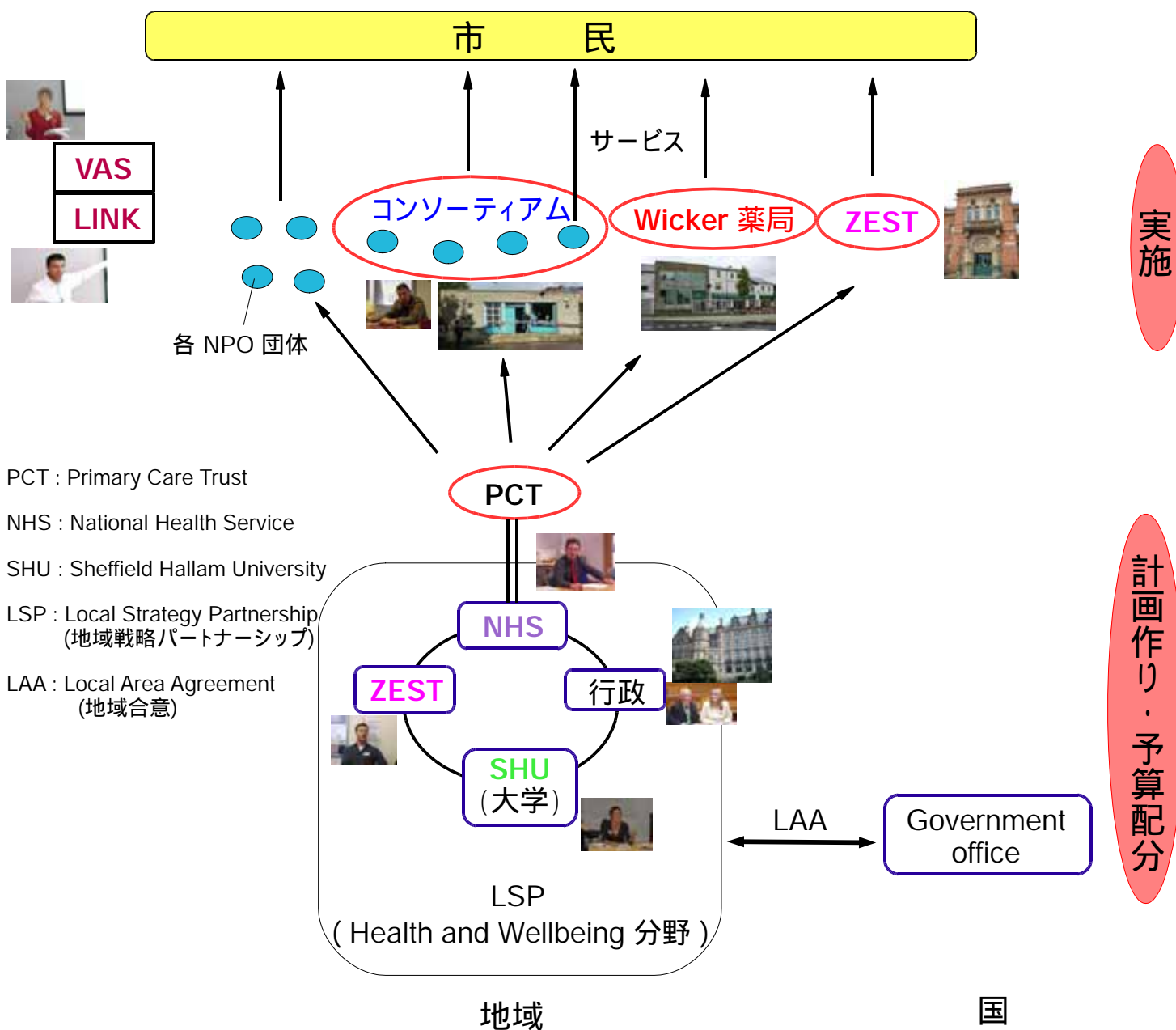


エコファーマ英国研修

作成者：薬学科 4年 福島、吉田 3年 岸本、野相

目的：先進国における環境問題への取り組みを学び、今後の日本社会の発展と国際支援のあり方について考える。今回は合意形成にもとづく問題解決のための社会のしくみについて公衆衛生の側面から視察した。

イギリス (シェフィールド市) の健康福祉分野のパートナーシップのしくみ



鉄鋼の街から衰退したシェフィールドを多様な経済活動のある活気ある街へと再生する地域戦略作りを担う。その中の Health and Wellbeing Partnership は NHS (National Health Service) と council (議会 + 市役所) が健康向上と活力をテーマにしたパートナーシップであり、医療機関、市役所、サードセクター、大学から構成される20人ほどの理事により運営される。自治体に取り組む Social Care と国に取り組む Medical Care を地域コミュニティへとつなぐのがこのパートナーシップの役割となっている。LSP(地域戦略パートナーシップ)が LAA (LSP と政府の間の協定) をもとに Health and Wellbeing 分野の予算を獲得する。その予算をもとに PCT が各サービス主体 (主に第3セクター) と協働してサービスを実施する。ここで VAS は各サービス主体のサポートを行い、LINKは、サービス評価を通じて、市民への最適サービス提供に貢献する。

シェフィールド (Sheffield) 市



- ・人口50万人の工業都市。(英国5番目)
- ・鉄鋼業で発展、現在は金属加工業(ナイフやフォークなど)が盛ん。
- ・ロンドンから北に約200kmに位置している。



シェフィールドの街並み



視察・ヒヤリング



ヴィクトリア調の建物である市役所にて、Sheffield First PartnershipにおけるHealth and Wellbeing Partnership について、5つの組織・仕組みについて担当者から説明があった。まず、市役所の職員のWilliamsさんからパートナーシップの概要を説明していただいた。次に市役所職員でコミュニティ・アッセンブリー担当のReynerさんから地域再生についてのお話をしていただいた。コミュニティ・アッセンブリーとは、地域ごとに異なる課題に取り組むことができるよう、市を7つの地区に分けて構成される小議会のことである。そして、今回は特別に市の議員さんから、パートナーシップと市議会の連携についてのお話をしていただいた。また、市の職員のParrottさんからは健康面における個人データの分析がL Aへとつなぐ有用なものであるというお話を聞いた。またPCTのSueさんからは具体的な健康問題を例にPCTと地域NPOの関わりについてのお話を聞いた。最後に、市の職員のNatalieさんからWHOの健康プランとパートナーシップの関係について説明していただいた。

NHS Sheffield

今回は、NHS (PCT) の基本方針であるクリニカルガバナンスについて話を聞いた。クリニカルガバナンスでは、『基本的なシステムがきちんとしていれば、他の事もうまくいく』という考えに基づき、各コミュニティ・ファーマシーとの間に
エッセンシャル・サービス
アドバンスド・サービス
エンハンスド・サービス の3種類の契約を結んでいる。

これらの契約には PCT の認可が必要で、各コミュニティ・ファーマシーは3年に1回の厳しいチェックを受ける。クリニカルガバナンスは10年前から重要視され始め、過去10年で洗練されてきている。

エッセンシャル・サービス:

全てのコミュニティ・ファーマシーが開業する際に必ず結ぶ契約で、調剤業務や、基本的なアドバイスをを行う。

各地域のPCTが毎年指定する6種類のパブリック・ヘルスに関するキャンペーンを実施することが義務付けられている。

キャンペーンの例

- 薬の無駄を無くすキャンペーン
- 口腔癌のキャンペーン
- 心筋梗塞のキャンペーン
- 癌の早期発見のキャンペーンなど

シェフィールド中に散在した117のコミュニティ・ファーマシーがそれぞれの地区でPCTの協力の下、効果的なキャンペーンを行うことができる。

パブリック・ヘルスにおいてコミュニティ・ファーマシーが重要な位置づけとなっている。

キャンペーンの費用は特別に支給されるものではなく、1処方につきPCTから支払われる90ペンス(約180円)に含まれる。



スティーブさん

アドバンスド・サービス:

PCTによって認可されたコミュニティ・ファーマシーのみが行えるサービスで、エッセンシャル・サービスよりも深いサポートを行う。

例えば、コンプライアンスの調査、患者さんが薬を処方どおりに飲む重要性を理解しているかなどを調べて報告する、など。

多くのコミュニティ・ファーマシーはエッセンシャル・サービスとアドバンスド・サービスの2つを行っている。

エンハンスド・サービス:

地域のPCT が特別に行っているサービスで、教育やアセスメント(評価)、サポートなど多種多様なサービスを行う。

特に重要なのがアセスメントである。例えば、コミュニティ・ファーマシーに訓練を受けた禁煙アドバイザーが喫煙者と密な人間関係を築き、現在の状況を判断することで、個人に合わせたサポートを行う。

エンハンスド・サービスを行うコミュニティ・ファーマシーにはPCTからの特別な予算が割り当てられる。

パブリックヘルスに割り当てられる予算は、PCTが持っている全予算の1~2%程度である。今後、予防の観点からさらに増えることが予測される

NHS Rotherham

ロザラム地域は炭鉱業・製鉄業が盛んであった為、循環器疾患が多い。また、高齢化や地区内での貧富の差、子供の肥満など様々な健康に関する問題がある。
その中から優先順位の高いテーマを選び、目標を設定し、地域全体で目標達成を目指す。ちなみに、大きな目標を設定しているので、それを達成した場合、政府から報奨金が出る。これが原動力となっている。

成功例: Fat Camp

肥満児を対象としたキャンプを夏休みに行い、薬などに頼らず、食事・運動・家族関係を改善して痩せる環境を整える。このプログラムは大学、現場の人が協力して考えている。また、学校や地域でのプロモーションを行い、肥満予防に取り組む。

Health and Wellbeing コンソーティアム

ブレア政権下、公共サービスの提供をサードセクターから調達する流れの中で生まれた、コンソーティアム(事業連合)。PCTとは32の契約をかわし運営をしてきた。正会員(組織内容や事業能力について確認された団体)と一般団体(事業能力を高める団体)の50を超える団体会員で構成されている。多様性や柔軟性の強みを武器にネットワークを構築し、公共サービス分野に関心・関連のある団体で窓口を一本化することで大きな仕事に取り組み、実績をあげている。



建物外観



マネージャーのNeil Coulson さん

VAS (Voluntary Action Sheffield)

ボランティアセクター(NPO)の中間支援団体。

シェフィールドには3000団体以上のNPO団体が存在し、それらは地域の満たされないニーズがあった時に、住民が主体的に始めるものが多く、ソーシャルケアに始まり、文化的活動、スポーツなど内容は多岐にわたる。その4分の3が政府からのお金の入らない小さなものである。

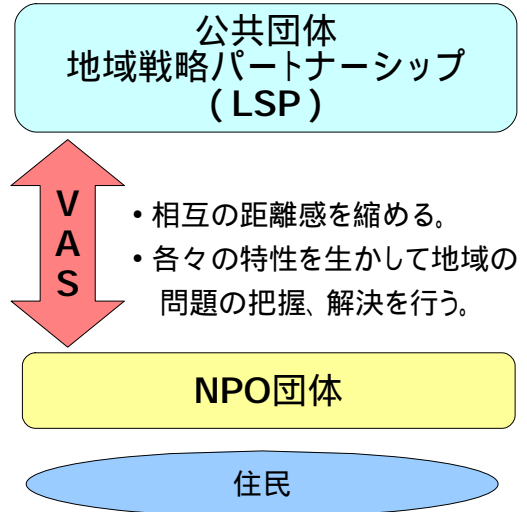
そのような団体は公共団体やPCT、他のNPO団体の情報や繋がりが乏しく、VASのような中間支援団体がその橋渡し役となっている。

公共団体は、非常に大きな団体で力があり、不動のものである。一方、NPO団体は大小さまざま、それぞれに異なる得意分野があり、ニーズに柔軟に対応できる。

これらをうまく繋ぎ、それぞれの利点を活かして活動することで、共通の目標である『地域の幸せ』を達成しようとしている。

VASが行う具体的な4つのサービス

1. NPO団体間及びNPO団体と公共団体のネットワーク作り・連携を支援する。
2. NPO団体の声を代表を送って公共団体とパートナーシップに伝える。
3. 地元政府や他の機関と協力して公共サービスの質を高める。
4. 公共サービスで満たされていない地域のニーズを明らかにする。



LINK (Local Involvement Network)

PCTがイギリス全国に設置しているヘルス・医療サービスの評価、サービス改善を目的とする住民のためのネットワーク。

シェフィールドにおいてはVASが受託している。

LINKには情報収集、提言などにおいて法的権限が与えられている。

LINKの4つの役割

1. 地域住民にネットワークに参加してもらうように働きかける。
2. 住民の考え、ニーズを調べる。
3. 地域の公共サービスのモニタリングをする。
4. サービス提供者に収集した情報を提供する。



Wicker 薬局 “Community Pharmacy (地域薬局)”

シェフィールド市内の薬剤師連合(44薬局)が集まって設立した、コンソーシアム型の薬局
 * 1952年の開業以来、年中無休でオープン！時間外の対応にも取り組んでいる。
 * スタッフ70名・・・薬剤師は4名のみ！！
 IT技術スタッフをはじめ、様々な人材がいる



Wicker 薬局で行っていること

- * 調剤、OTC薬の販売
- * 薬の夜間宅配サービス
- * 相談場所設置
- * 麻薬中毒患者へのケア
- * クラミジア、ピロリ菌、妊娠の検査
- * 禁煙補助
- * 体重、血圧のモニタリング
- * くすりの使用状況の調査 など



きれいな薬局内



薬局の隣には“Mobility shop”を併設
 障害のある人が快適に生活するためのグッズを販売



いす



介護用ベッド



車いす



生活用品



杖



医師や作業療法士などに相談・治療ができるような薬局内に診察室が3室ある

薬のデリバリー用のシート



朝、昼、夜でそれぞれ一包化
 1週間分の薬が用意されている



麻薬中毒患者へのケアについて

英国では薬物中毒に関して、売薬は犯罪であるが、中毒はその被害であるという考え方がある。その考えに基づき、麻薬を打つ針の使い回しによる感染症蔓延の防止のため、Wicker 薬局では匿名での針交換を行っている。中毒者は、針交換専用の別のドアから出入りし、仕切られたカウンターで交換を行うなど、他の患者と顔をあわせないで済むような工夫が行われている。

針を入れる筒
 外から見えないように黒くなっている



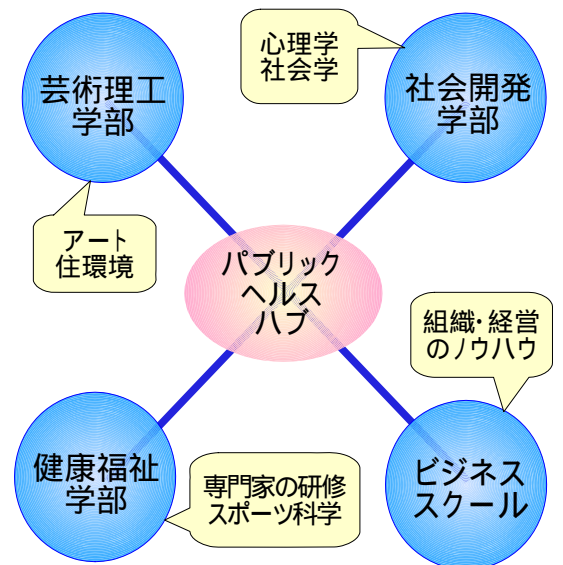
Sheffield Hallam University (SHU)

SHUは4つの学部が各々独自の観点で公衆衛生に関する研究と実践に取り組んでいる。

社会開発学部、芸術理工学部、健康福祉学部、ビジネススクールが各自で持っている公衆衛生の知識をまとめ、外部との窓口となるのがPublic Health Hubである。

Hubがあることで学部間に交流が生まれ、新しいアイデアが生まれるなどの相乗効果が起きている。また、他の大学や市役所・PCTなど外部との連携を図り、大学にある公衆衛生の知識を地域へと積極的に還元している。

なお、1週間に1日はHubの仕事をしなければならないという規定が成されており、Hubが形式だけの仕組みにならないようになっている。



例1. 地域の人材育成プログラム

ZESTのスタッフのコミュニケーション能力向上、薬剤師、看護師などの研修

例2. PCTからの資金で研究を行っている人の支援(情報提供など)

例3. 街中にあるアートが住民の健康に与える影響を調べる

例1, 2は外部との連携、例3は学部間の連携



ランチしながら勉強会



ZEST

地域住民の健康福祉と保護をテーマにした社会的企業。

(社会的企業・社会的課題の解決を目的として、収益事業に取り組む事業体のこと)

スタッフ80名



ビクトリア時代の建物

ZESTの目標: 地域の人々が元気に活動できること

その一つとして、一か所でより高い健康向上のためのサービスを受けられることを目指している。

活動内容

- * 雇用に関する情報提供、アドバイス
- * 子供、若者、家庭に関するプログラム
- * 健康と生活向上のためのセンター運営
- * 予防活動のプログラム

- * 施設・図書館、カフェ、プール、ジム
- * 子供の宿題やスポーツ
- * 運動療法や食育などの肥満対策
- * 健康管理・生活向上のためのサービスを提供 (心臓系疾患のリハビリなど) etc...



ジム

大事なのは、その効果を見ることである！！

様々な人種、年齢、病気の人が利用する施設であるため、それぞれのニーズを知り、そのニーズに合わせたサービスを行うことで、より多くの人々が快適に使用できるような施設を作ることを目指す。

ZESTは自治体やPCTからの事業委託費、住民の施設利用料に加え、施設内の一室を小さなNPO団体に賃貸して収入を得ている。また、建物の一部には市のオフィスが入居しており、市の職員が常駐していることで、一次セクターとの意志疎通を図ることが可能となっている。



カフェ

今後の課題 (挑戦)

- ・ 主要なサービスを変えて行う
- ・ 異なる文化での活動
- ・ 公共資金の減少
- ・ 質の高いサービスの確立
- ・ 多様な利用者に応じたマーケティング
- ・ 社会的活動(チャリティー)と経営事業(収益)のバランス
- ・ 効果、影響の測定



栄養満点スムージー！！サービスです

♡ 感想 ♡

一日目の午前には、市のパートナーシップのしくみについて、まだその団体・組織の役割や位置づけが分からないままお話をいただいていたので、これから先の視察研修がきちんと理解していけるのかとても不安になりました。しかし、研修中は、各団体・組織の方から説明を聞く際、現地コーディネーターの小山さんが直訳ではなく、端的な訳をしてくれていたことで、英語に対する拒否感はかなり和らぎました。視察先の方々も、どの方も地域の健康・福祉のサービス増進に関して熱心で、また公衆衛生・疾患予防に関しても活動的に取り組んでいました。日本では、このような地域体制的な活動は顕著ではないので、驚き、感心しました。

視察はたくさんの方の事を短時間で学ぶ辛さと、移動距離の長さは大変なものがありました。

しかし、どこでも紅茶とお菓子でもてなしをしてくれ、日本では味わえないイギリス独特の文化・建物・人々にふれ、何もかもが新鮮でした。イギリス研修は毎日が充実した素晴らしい日々でした。

